

## 実践のまとめ（第1学年 英語科）

小千谷市立小千谷中学校 教諭 西澤 思音

### 1 研究テーマ

**生徒が自分自身で試行錯誤し、成長を実感できる授業  
～言語活動の中間指導の充実と、適切なICTの活用を通じた書く力の育成～**

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

学習指導要領には、ICTの活用に関して「生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること」という記述がある。

また、「書くこと」における生徒のつまずきには、綴りや語順、文法、語彙だけでなく、発想や情報整理、文章構成など、様々なものが見られる。

そこで、ICTを有効活用することで言語活動における中間指導を充実させ、生徒の書く力の育成につなげたいと考えた。

私は、中間指導の役割を「言語面の正確さ」と「内容面の適切さ」を高めることであると考えているが、これまでの自分自身の中間指導を振り返ると、「言語面の正確さ」に終始してしまっていた。そのため、生徒がより良い表現を探したり他者参照をしたりして、自身の表現をブラッシュアップする機会に乏しかった。この反省点を踏まえて、今年度は他者参照をする場面を確保し、「内容面の適切さ」を高めることができるような中間指導を意識した授業を行ってきた。

また、「生徒が前のめりになって生き生きと課題に取り組むような授業を目指したい」という願いが私にはある。そこで、中間指導やICTの活用を通して、生徒が自身で「より良い英文を書くことができた、より良い発表ができた」と実感できるような授業をつくっていきたい。

以上の理由から、上記の研究テーマを設定した。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 他者参照によるブラッシュアップする場面の設定

自分の表現を考察し、自分以外の生徒にも使えそうな表現を共同編集ボードに蓄積する。その後、ボード上の様々な良い表現に触れる機会を設定し、それらを参考にメモを作り直したり、発表のリハーサルをしたりすることで、生徒が自分の表現をブラッシュアップできるようにする。他者の表現を参照することは、単に自分自身の発表や英文に良い表現を取り入れるだけでなく、内容面で新たな視点に気づく機会にもなると考えられる。他者参照の際には、良い視点の表現を教師が全体で強調して取り上げるようにしたい。

##### ② 言語活動の充実

言語活動の中で誰に対して何を表現するかなど、生徒がある程度の自由度をもって選択して活動できるようにする。また、単元の目標に向かってブレインストーミングなどを行い、発想や情報整理の負担を軽くすることで、生徒が興味をもって粘り強く言語活動に取り組むことができるようにする。

また、言語活動では「目的・場面・状況」の設定が重要であるが、一度話したことのあるフランスからの留学生を相手にすることで、リアリティのある課題に取り組ませることができる。

③ 単元ゴールの設定と振り返りシートの工夫

単元の開始時にゴールとなる活動をはっきりと示し、生徒が見通しをもって授業に臨めるようにする。また、記述して記録に残す振り返りを「①単元開始時」「②単元の間」「③単元終了時」の3回とする。生徒自身で単元開始時に考えた「この単元でできるようになりたいこと」や、単元のゴールに対する到達度や自信を単元の間で振り返ること、生徒が自身で言語活動への取り組み方を改善することにつながると思う。

**(3) 研究テーマに関わる評価**

① アンケートの数値と記述

単元の間実施するアンケートにおいて、「中間指導が発表の内容をより良くするために役立っている」「中間指導が英語のミスを減らすことに役立っている」と答える生徒が8割以上になる。

また、自由記述において「できるようになったこと」とその理由を具体的に記述している。

② GRITスコア

校内の学習アンケートにおいて、GRITスコアの「粘り強さスコア」が上昇する。

**3 単元と指導計画**

**(1) 単元名**

School Life in the U.S.A. (NEW CROWN English Series 1 三省堂)

**(2) 単元の目標**

フランスから小千谷市に留学に来た5人の高校生に対して、小千谷中学校の学校生活や行事を紹介するメールを作成する。

10月の授業で5人の留学生がフランスの学校生活について紹介し、生徒が日本での人気のキャラクターを紹介した。それぞれの生徒が10月に会話をした留学生をメール相手としてイメージし、単元の学習を行う。

**(3) 単元の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現在進行形の特徴やきまりに関する事項を理解している。	・小千谷中学校について知ってもらうために、学校生活や行事について、画像を描写し、詳しい説明を付け加えて、まとまりのある文章を書いている。	・小千谷中学校について知ってもらうために、学校生活や行事について、画像を描写し、詳しい説明を付け加えて、まとまりのある文章を書こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全8時間、本時3／8時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (3) 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入 フランス人留学生が紹介したフランスの学校生活を思い出す。</li> <li>・単元目標の設定 自分自身ができるようになりたいことを自分の言葉で設定する。</li> <li>・より良いメールの要素を考え、全員で共有する。</li> <li>・紹介したい内容のブレインストーミングを行い、画像を選択する。</li> <li>・現在進行形を用いて、画像を見せながら発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎フランス人留学生の紹介では、どんなことを伝えていたか思い出そう。</li> <li>◎この単元のゴール活動をふまえて、どんなことができるようになりたいか書いてみよう。</li> <li>◎より良いメールのチェックリストをみんなで作ろう。</li> <li>◎小千谷中学校について、紹介したいことをみんなで考えよう。</li> <li>◎画像を見せながら、その時の様子を英語で発表しよう。</li> </ul>	<p>記録に残す評価は行わない。</p> <p>※単元を通して、帯活動でPicture Tellingを行う。</p>
2 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在進行形の疑問文を用いて話したり、書いたりする。</li> <li>・教科書の内容を理解しリテリングを行う。</li> <li>・どちらの食べ物がほしいかたずね合う。また、感想や理由を付け加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎画像を見ただけではよくわからないことについて質問しよう。</li> <li>◎教科書を読んでわかったことを自分の言葉で伝えよう。</li> <li>◎二択の質問に答えたり、それに対して一言付け加えたりしよう。</li> </ul>	<p>記録に残す評価は行わない。</p>
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送信するメールの内容を考える。</li> <li>・メールに載せる画像と内容を考え、メモをもとに発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎小千谷中学校のことをよく知ってもらえるように、画像を詳しく描写して発表したり書いたりしよう。</li> </ul>	<p><b>知識・技能</b> 現在進行形を含む英文を書くことができる。（ワークシート）</p> <p><b>思考・判断・表現</b> 学校生活や行事について、画像を描写し、詳しい説明を付け加えて、ま</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表したものをもとにメールを作成する。</li> <li>・パフォーマンステスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎実際にメールを書いて送信しよう。</li> <li>◎メールに画像をつけて作成しよう。</li> </ul>	<p>とまりのある文章を書いている（ワークシート）</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>学校生活や行事について、より良いまとまりのある文章を書こうとしている。（見取り）</p>
--	---	--	---

## 4 単元と生徒

### (1) 単元について

これまで、メモをもとに発表する、中間指導で発表をブラッシュアップする、発表内容を英作文につなげるの3点を意識して指導してきた。本単元では、これまで学習した表現に加えて、新たに現在進行形を学習する。現在進行形を学習することで、画像や動画を描写するなど視覚的な情報を英語で表現することができるようになる。

研究テーマである書く力の育成に向けて、単に進出文法である現在進行形の文を羅列するだけでなく、既習文法との相違点を捉えながら、適切な表現ができるような働き掛けを中間指導で特に意識していきたい。

### (2) 生徒の実態

1学年は、英語の授業に積極的に取り組むことのできる生徒が多い。特に授業中の言語活動において、ペアやグループなどの小集団で意欲的に話す姿が見られる。一方で、苦手意識を強く抱いている生徒も一定数おり、学力差の大きい集団である。また、研究テーマである「書くこと」に関しては、綴りや語順、文法、語彙だけでなく、発想や情報整理、文章構成など生徒それぞれが様々な要素で困り感を抱えている。そういった生徒一人一人の困り感を解消し「できた！」と実感できるように、ICTを活用し、他者参照を通して自身の英文をブラッシュアップできる機会を設定してきた。本単元においては、他者参照を通して、学校生活の画像を描写する現在進行形の英文を、様々なバリエーションで表現できるようになることが期待できる。また、本単元の言語活動においては、現在進行形だけでなく、既習文法である現在形を用いて学校生活における習慣を説明することになる。その際に、ICTを活用することで現在形と現在進行形の特徴を理解し、使うことが期待できる。

## 5 本時の展開（令和7年11月10日実施）

### (1) ねらい

- ・以前話したフランスからの留学生に小千谷中学校の学校生活をよく知ってもらえるように、画像を用いて詳しく説明することができる。（話すこと〔発表〕）

### (2) 展開の構想

#### ① 他者参照によるブラッシュアップする場面の設定

オクリンクプラスを用いて「イチオシ表現」という視点で、自分の表現を考察し、自分以外の生徒にも使えそうな表現を共同編集ボードに蓄積する。その後、ボード上の様々な良い表現に触れる機会を設定し、生徒が自分の英文をブラッシュアップできるようにする。他者のイチオシ表現を参照することは、単に自分自身の英文に良い表現を取り入れる

だけでなく、「こんなことを伝えるのもいいな！」と、内容面で新たな視点に気づく機会にもなると考える。画像を描写する表現にとどまらず、詳しい説明や自分の思いを伝えるような表現を、共同編集ボードに蓄積できるように指導していきたい。

## ② 言語活動の充実

何を表現するかを生徒が言語活動の中で、ある程度の自由度をもって選択できるように、言語活動の導入として、単元の開始時にブレインストーミングを行なう。この活動を通して、発想や情報整理の負担を軽くすることで、生徒が興味をもって粘り強く言語活動に取り組むことができるようになると考えられる。また、学校生活における多くの画像の中から、紹介するものを自由に選択できるようにしたり、生徒自身がタブレット端末を用いて紹介したい画像を撮ったりすることで、言語活動の充実を図る。

## (3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 (5)	○ペアワーク Pic. Telling Quiz	◎画像を示す。 ●英語で説明する。	
展開 (40)	○事前に決めておいた紹介したい画像についてメモを作成する。 ○メモをもとにペアの人に発表する。 (第1ラウンド)  ○パワーアップタイム (中間指導①)  ○準備タイム①  ○メモをもとにペアの人に発表する。 (第2ラウンド)  ○パワーアップタイム (中間指導②) 【他者参照】	◎Let' s make a memo about your picture. ●2文程度は書ける。 など  ◎Make pairs. Let' s share your idea with your partner. ●1回目の発表を終える。 ●お互いにコメントをする。  ◎どうやって発表を始めた？ ◎教師によるモデルの提示。 ◎みんな・・・に困ってたね。  ●自分のメモを修正したり、練習したり、目標に向かって各自の選んだ方法で学習する。  ●1回目よりも良い発表になる。 ●お互いにコメントをする。  ◎オクリンクプラスにクラスの中の「イチオシ表現」を集めてみよう。	○今できる自己ベストを出せるように声をかける ◇リスト化した「より良い発表の条件」を示しコメントの視点を与える。  ○生徒から出た表現を板書してまとめる。 ○発表の始め方を数パターン紹介する。 □より良い発表にしようと他者参照して改善しようとしているか。  ○画像を描写する表現だけに終始することなく、現在形を用いて関連情報を説明するような表現に注目させたい。

	<p>○準備タイム②</p> <p>○メモをもとにペアの人に発表する。 (最終ラウンド)</p>	<p>●他者参照して真似をしたり、自分の発表に新たな表現を追加したりする。</p> <p>●自分のメモを修正したり、練習したり、目標に向かって各自の選んだ方法で学習する。</p> <p>●これまでよりも相手に内容が詳しく伝わる発表になる。</p> <p>●お互いにコメントをする。</p>	<p>□画像を描写し、詳しい説明を付け加えて、発表できているか。</p>
終末 (5)	○振り返り	<p>◎今日の発表は「より良いメールの条件」の視点から考えて、どうだった？</p> <p>●ペアで振り返りを話す。</p>	

#### (4) 評価

- ・相手により伝わる発表にしようとして他者参照によって改善しようとしているか。
- ・画像を描写し、詳しい説明を付け加えて、まとまりのある発表をしているか。

(主体的に学習に取り組む態度 見取り)

## 6 実践を振り返って

### (1) 指導の実際

今回の実践では、帰国後のフランス人留学生に対してメールを作成するというリアリティのある課題を設定し、生徒が意欲的に言語活動に取り組むことを目指した。生徒たちは、一度話したことのあるフランス人留学生に対して、生徒自身が伝えたいと強く思う内容を表現しようとする姿が見られた。メールの宛先を意識しながら伝えた内容を考えたことで、生徒の「〇〇さんに伝えたいのは、この内容なんだ！」という思いを言語活動に生かすことができた。

一方で、伝えたい内容が多岐にわたり難しくなってしまう、翻訳した文を理解せずに使用する生徒が複数見られた。そこで、中間指導では教師によるモデルの提示や困り感の共有を行い、より相手に伝わる発表につながるように指導した。また、次時には「これって本当に伝わる?」「どう言ったらいいかな?」という視点で協働学習を行い、何とか既習文法を用いて表現しようとする姿が見られた。

また、発表後には単元の開始時に生徒とともに作成した「より良い発表の条件」を基にコメントし合うことで、常に相手意識をもって発表することができた。フランス人留学生に伝えることをイメージして、メモを練り直したり付け加えたりする生徒が多く、「内容面の適切さ」を高めることができた。

## (2) 研究テーマに関わる評価

① 実践後に、オクリンクプラスを使ってお互いの表現をシェアすることと、「これって伝わる？」という視点で協働学習することについて、「発表内容をより良くすることに役立っていますか？」と「英語のミスが減らすことに役立っていますか？」という2つの質問を実施した。「内容面の適切さ」に関しては91%の生徒が肯定的に回答した（図1）。具体的な記述は以下のとおり（表1）。「言語面の正確さ」に関しては75%の生徒が肯定的に回答した（図2）。具体的な記述は以下のとおり（表2）。アンケートの結果から、ICTを活用した他者参照は「言語面の正確さ」よりも、生徒の内容面のブラッシュアップにつながっていると考えられる。生徒の記述の中には、特に新たな気づきや考えの広がりについて記述しているものが多く、他者参照の場면을効果的に活用していた生徒が多かったと考えられる。

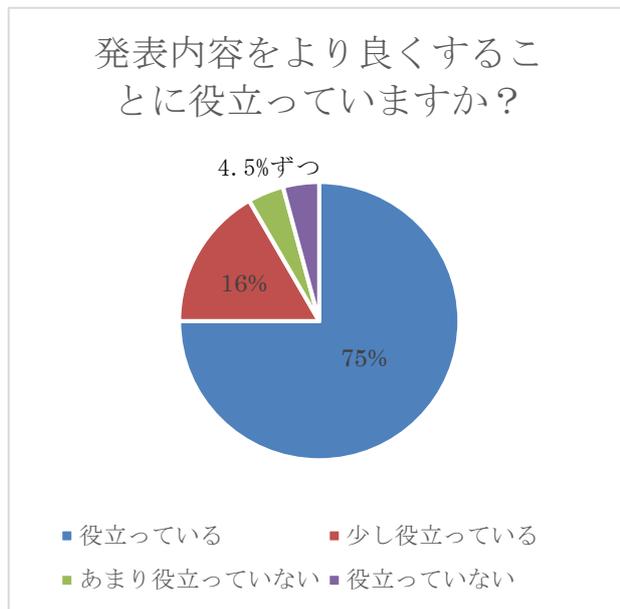


図1

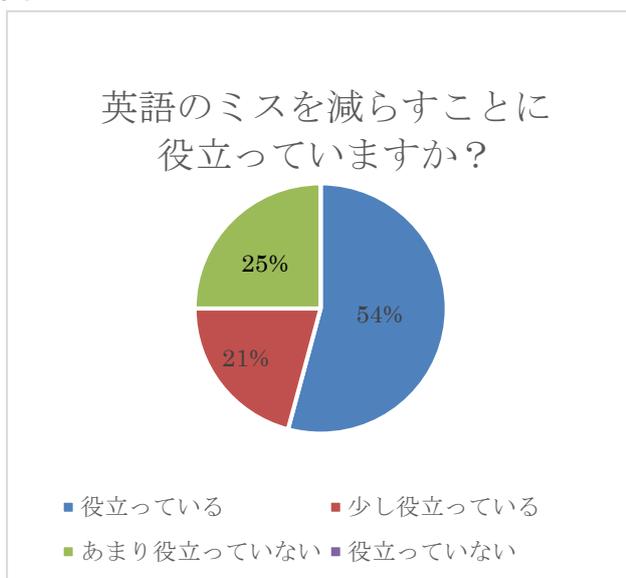


図2

表1

同じような内容でも違う伝え方をしている人がいて、参考になる。
自分では思いつかなかった表現や情報を自分の発表に加えることができる。
他の人が書いた英文を見て、よかったものを真似することで、考えが広がる。
自分一人だけだと、何が書けるか不安だけど、みんなの考えを共有できて、自分の文に付け足すことができる。
自分と発表する内容がかなり違ったり、シェアされた表現が詳しい内容だったりするとあまり役立たない。発表の始め方などを知れることは助かっている。

表2

友達の英語を参考にすると、自然と自分もスペルが分かってきて、ミスが減った。
先生や友達がボード上の英文を見て、スペルミスを直してくれることがある。
翻訳サイトなどに頼ってしまい、みんなのボードを見てミスを減らすことはできていない。
教科書や先生が黒板に書いてくれたものを参考にすれば、ミスに気付けるからあまり役立っていない
自分の内容と似ているものに関しては、スペルミスに気付くことができるが、かけ離れているものは見てもわからない

- ② G R I Tスコアの粘り強さスコアの数値について、1学期は3.35だったが授業実践後は3.42と僅かではあるが上昇した。これまでの授業の中で、言語活動と中間指導を繰り返し、より良い英文や発表を作ることを意識してきた。また、1回目よりも2回目、2回目よりも3回目の発表が良くなるように指導をしてきたため、生徒が小さな成功体験を積み重ねることにつながり、粘り強さスコアの数値が上昇したと考えられる。

### (3) 今後の課題

本時は「詳しく説明する」ということを目標に、発表と中間指導を繰り返した。しかし、「詳しく」という視点が曖昧で、生徒がどのように自身の英文をブラッシュアップしていくべきか明確にすることができていなかった。生徒とともに「詳しい」とはどういう内容かを考えたり、教科書のモデル文の中から「詳しく説明している文」を探したりすることで、生徒が目指すゴールをはっきりさせることが必要であると考え。本単元では「フランス人留学生に送るより良いメールのチェックリスト」を生徒とともに作成し、単元を通して意識させた。今後の授業においては、そういったチェックリストをさらに具体的な姿に落とし込むことで、より一層効果的な言語活動につなげていきたい。

また、英語翻訳で調べた表現の意味や発音を理解せずに使って発表したり、そのままコピーアンドペーストしたりする生徒が一定数いたが、これでは生徒の発表する力や書く力を伸ばすことにはつながらない。そこで、翻訳の使用を禁止するのではなく、相手に伝わるのかという視点で、翻訳した表現についてグループで検討したり、既習表現で言い換えることはできないかパラフレーズさせたりすることで、生徒が自分の力で英語を使って表現できるようにしていきたい。最初からミスのない完璧な表現を目指すのではなく、徐々に正確に書けるように、言語活動を通して指導していきたい。

#### <参考・引用文献>

文部科学省, 中学校指導要領 (平成29年度告示) 解説 外国語編, 東京: 開隆堂出版株式会社, 2018